

## 第4回中部歴史まちづくりサミット パネルディスカッション要旨

- コーディネーター： 岐阜大学地域科学部教授 西村 貢 氏
- パネリスト： 高山市長 國島 芳明 氏、亀山市長 櫻井 義之 氏  
犬山市副市長 小澤 正司 氏、恵那市長 可知 義明 氏  
美濃市長 武藤 鉄弘 氏、明和町長 中井 幸充 氏、郡上市長 日置 敏明 氏  
名古屋市長 河村 たかし 氏、伊賀市長 岡本 栄 氏、岡崎市長 内田 康宏 氏  
三島市長 豊岡 武士 氏  
本省大臣官房審議官 柳野良明、中部地方整備局長 塚原 浩一
- テーマ： 歴史まちづくりに関する取組及び歴まち連携事業について

### ●主な意見

#### 歴史まちづくりに関する取組について

- ・美濃市では、モデル路線として一部の区間について電線地中化を実施したところ、形が目に見えたことにより、隣接する地区から地中化の要望が来るようになり、事業が進んだ。
- ・岩村城下町の整備で一番効果が認められた取組は電線類の地中化。反対に、一番心配なのは、空き家。壊されて駐車場になると景観を失ってしまう。民間のノウハウ等も活用しつつ対応していく必要がある。
- ・伝統的建造物群保存修理事業については、市民と行政が協働してワークショップや委員会を立ち上げ取り組んできた。
- ・伊賀市の中心商店街では、高齢化による後継者不足、それに伴うシャッター化の問題が顕在化している。
- ・岩村城下町では、20年ほど空き家となっていた木造2階建家屋を、ゲストハウスにリノベーションし活用している事例がある。

#### 歴史まちづくり連携事業の取組について

- ・災害により歴史的資産が被害を受けても、その復旧は後回しになりがち。歴史まちづくりを進めるうえで、歴史的資産が被災した場合の復旧支援体制を構築しておくことは極めて重要。
- ・東日本大震災の甚大な被害を教訓に、広域連携の必要性を実感。そこで、亀山市では、岡山県高梁市と災害相互協定を結び、災害時だけでなく、平時においても協力体制を構築。
- ・歴史的文化的資産が被災した際の復旧について、歴まち認定都市間でも連携し相互支援するような体制を構築する必要がある。
- ・中部には観光の目玉として昇龍道プロジェクトがあるので、認定都市間の観光連携をそれとどうマッチングさせていくかが重要。
- ・犬山祭りの維持運営を行っている城下町では、人口減少、高齢化の進行により担い手不足に陥っている。そこに住む人を増やす取組が重要。人が増えなければ、歴史、文化、伝統の維持・継承ができない。
- ・斎宮等の整備だけでは観光客の誘客は難しい。周辺都市との連携は重要だと考えている。
- ・明和町には宿泊施設が不足しているため、民泊の活用などを検討したい。
- ・相互に認定都市の取組を紹介し合うことが、広域観光に繋がるのではないかと。
- ・海外からの観光客が4,000万人を超える頃には、従来のゴールデンルートだけでは対応できなくなり、日本の内部地域が注目されてくるのではないかと。そのときに備え、歴史まちづくりを進めておく必要がある。
- ・郡上市と言えば、水と踊りとお城。それら地域固有の資産を大切にしていきたい。
- ・名古屋と言えば名古屋城。都市の中心は本物にしないと、都市のプライドが出てこない。

【以上】